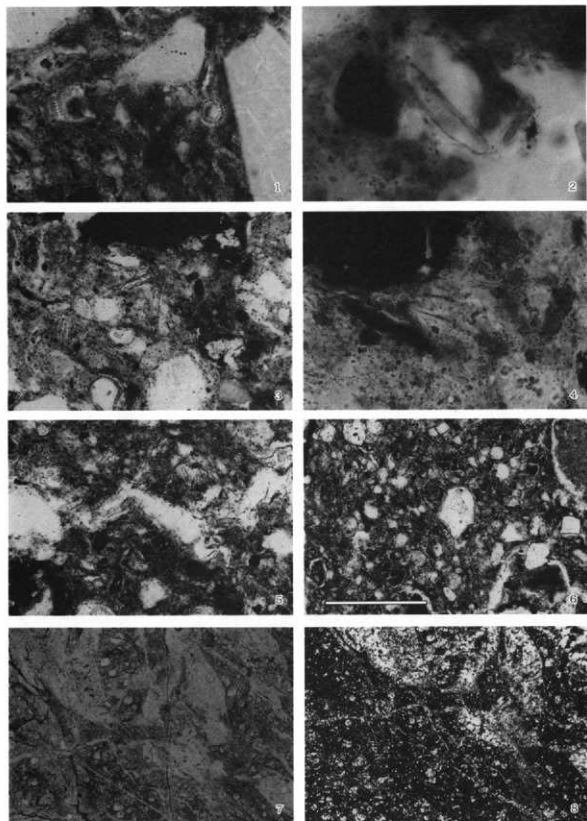


附図版3 埴輪胎土の顕微鏡写真

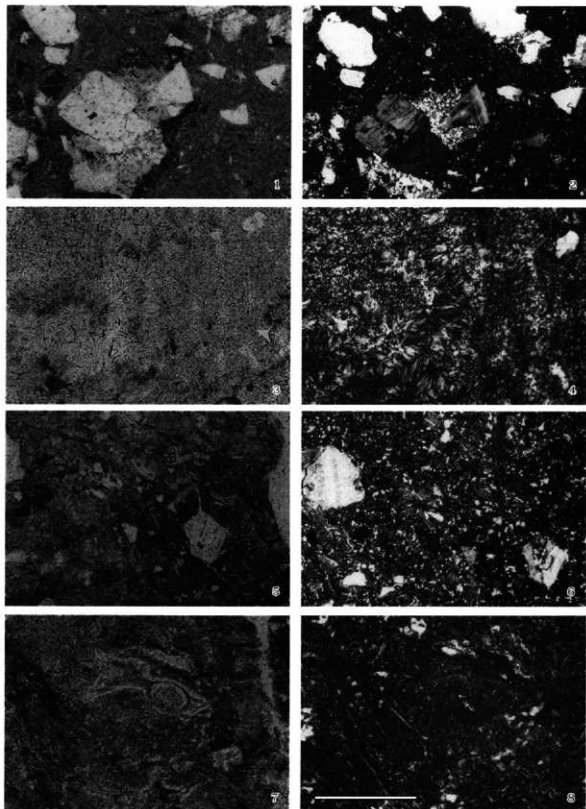
(スケールbar: No.1~6:200 μ m, No.7~9:100 μ)

1. 状況写真 No.9 2. 状況写真 No.10 3. 状況写真 No.11 4. 状況写真 No.12
5. 状況写真 No.13 6. 状況写真 No.17 7. 凝灰岩質切片(モザイク) No.4 8. 軽石型ガラス No.4



附図版4 埴輪胎土中の粒子顕微鏡写真

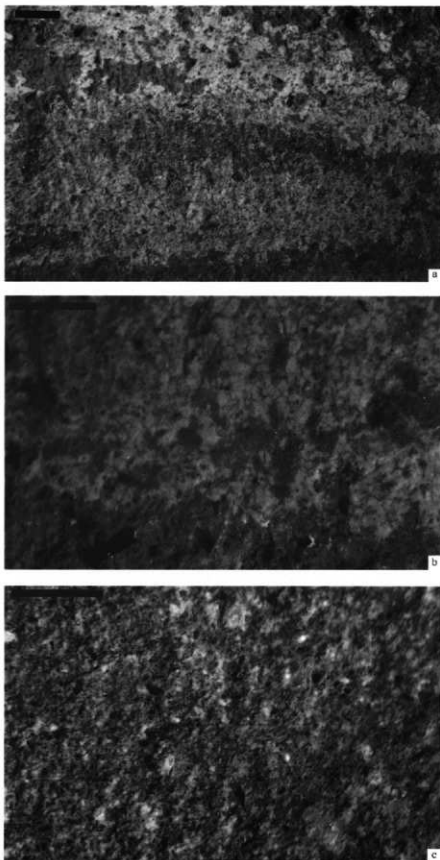
- | | |
|--|---|
| <p>1. 珪藻化石 (<i>Melosira ambigua</i>) スケール bar: No.3 40μm</p> <p>3. 珪藻化石 (<i>Hantzschia amphioxys</i>) スケール bar: No.10 100μm</p> <p>5. 珪藻化石 (<i>Pinnularia borealis</i>) スケール bar: No.7 100μm</p> <p>7. チャート礫 (解放ニコル) スケール bar: No.2 1mm</p> | <p>2. 珪藻化石 (<i>Enosella pectinifolia</i> var. <i>minor</i>) スケール bar: No.10 20μm</p> <p>4. 珪藻化石 (<i>Enosella pectinifolia</i> var. <i>minor</i>) スケール bar: No.7 40μm</p> <p>6. 植物珪酸体化石 (コシ炭) スケール bar: No.4 200μm</p> <p>8. チャート礫 (収交ニコル) スケール bar: No.2 1mm</p> |
|--|---|



附図版5 岩石の偏光顕微鏡写真

1. 岩石No14 (解放ニコル) スケール bar: 1 m
 3. 岩石No14 (解放ニコル) スケール bar: 200µm
 5. 岩石No15 (解放ニコル) スケール bar: 1 m
 7. 岩石No15 (解放ニコル) スケール bar: 200µm

2. 岩石No14 (直交ニコル) スケール bar: 1 m
 4. 岩石No14 (直交ニコル) スケール bar: 200µm
 6. 岩石No15 (直交ニコル) スケール bar: 1 m
 8. 岩石No15 (直交ニコル) スケール bar: 200µm



附図版 No13埴輪表面付着顔料の実体顕微鏡写真

a. 白色顔料 (スケール2mm), b. 赤色顔料 (スケール1mm), c. 黒色顔料 (スケール1mm)

第6篇 まとめ

調査成果として、下記4題についてまとめた。

1. 古墳に関連して
2. 西長岡南古墳群の古墳
3. 埴輪の焼成について考える
4. 生産基盤について

第1章 古墳に関連して

蛇川河川改修工事に伴い、成塚石橋遺跡Ⅱに古墳9、成塚永昌寺遺跡に古墳3、西長岡南遺跡Ⅰ～Ⅲに古墳16、併せて28基が調査された。それらは、墳丘をとどめた古墳に比べれば、削平化された古墳痕のような残存状況であり、埋葬施設については推考せざるを得ない結果であった。それら古墳の分布は、成塚石橋遺跡Ⅱ、成塚永昌寺遺跡は、発掘で明らかにされた小河川で分断されていれば、小支群単位も考えられるが、巨視的には相互は近接し、一群とも見える位置関係にある。西長岡南遺跡の一群は、周辺の古墳を含めて成塚古墳群の西長岡南古墳群としてよい支群のなまとまりがある。埋葬施設と築造時期に関し、1点目として埋葬施設は竪穴系石室の11・14・15号古墳、竪穴系石室の残痕である古墳6、竪穴系埋葬施設であってもよい古墳2があり、周堀の平面上、過半以上が調査されている古墳2・7・12号古墳は、前出の旧表土下を掘り下げた地下式構造ではないらしく発見されていない。この中で古墳2の埋葬施設石材は本来的な位置ではなく旧地表を若干凹めるか地表上に構築されたと推測される。古墳2・7・12号古墳について強いて言えば、横穴式石室を設けたのであれば、多量な石室材を必要とし、石室自体も半地下で設けるなど作業上の痕跡も含めて発見されてよいはずである。そのため、結論的には竪穴系石室の存在を想定しておきたい。2点目とし、供献用の須恵器類の出土は、12号古墳の38-1・2（第57図）の直口壺か大形鉢の口縁部片を見るほかは、8世紀以降の少量がある。38-1・2は胎土から見て、太田金山窯跡群の製品ではなく、県内西方から埼玉県の範囲から運ばれたと思える個体である。したがって古墳の築造時期は太田金山窯跡群の生産活動が活発化する6世紀中頃以前に、16基の古墳の築造時期があったと類推される。3点目として埴輪類については、破片の割れ口に黒みをおびた吸炭部が芯割に残され、外面を酸化気味に発色させる作業技法をとっている。この方法は、窯体を用いたか、大量の燃料で焼造を行ったことを示唆している。西長岡南遺跡Ⅰ～Ⅲの埴輪類は形象埴輪のうちの少量を除く他は、この特徴が見える。おそらくは大量燃料の使用は焼造上、不効率であるため、その多くは埴輪窯の製品と推定しておきたい。埴輪類中に、高速回転による横刷毛を施し、地方生産初期の須恵器と共存しそうな段階まで磨りうる固体や、次期の強い酸化焙化の個体もないため、出土の埴輪類は6世紀前半の製品、およびその頃に埴輪窯の大規模生産がなされていたことを併せて考えたい。4点目とし、榛名山二ツ岳起源のHr-FPの存在に関してである。白色の軽石粒は周堀の埋没土全体にわたって入るが周堀の埋土中位から中位下方にかけ、やや多く混入している箇所が多くにあり、各古墳が6世紀前半の築造として考えた際、その軽石粒がHr-FPに相当すると推定しておきたい。以上、4点の理由から全体の築造時期を6世紀前半頃であったと考えたい。続いて、6世紀中頃から以降の古墳の継続性について次のように考えたい。遺跡地の西方に寺井南寺の存在がある。創建期瓦は天武朝頃、7世紀後半中頃であり、本格的

な発掘調査はなされていないが、既出資料や木暮仁一氏の研究などによって諸堂を配する本格的な寺院跡との想定がなされ、創建鐘瓦意匠は、既説のとおり天武期との係わりを、後出瓦には上野国分寺式瓦が使用され官的な色彩の強い寺院跡でもある。7世紀後半中頃の上毛野地域の仏教は、シャーマン的要素の強い原始仏教を継承していた頃と考えられるので、そうした本格的寺院の存在は、むしろ特殊であったのであり、寺院地を誘致したこの地の大首長は、小地域盟主級であろう。それについて木津博明氏（10頁解説補注参照）は大野東人を輩出した大野氏の存在を想定しておられ、7世紀後半にはこの地の畿内文化摂取が地域でも突出した状況にあった。そのため、八王子丘陵、金山丘陵中に7世紀代の古墳の展開はあると言われるものの、藪塚台地側で横穴式石室を持つ二ツ山古墳の展開時期の後、7世紀には、古墳の築造が薄弱になってよい地域であると考えたい。

第2章 西長岡南古墳群の占地

西長岡南遺跡における16基の古墳は、南端に13号古墳が、北端に15号古墳が存在し、その間、重複しそうなくらい接近している個所もある。重複しなかった点は、相互に近しい時期に築造されたためと考えられ、他方で6世紀前半代における土地利用上、墳墓築造の場所以限定されて来ていることを感じさせる。このままとまりの南限は、13号古墳とその南側に設けたH8拡張区との間に市道藪塚太田線があり、ローム層上面で50cmほど北上りの浅い変換が生じている。この変換線は、市道に沿った南側が一段下がる形で東方に続き、東接の未調査地に存在する古墳も、これを境に多くなり、おそらく、古代においてもこの変換部が利用の目安となっていたように思える。北端は石室構築として15号古墳が最北に、周堀を伴う古墳では12号古墳が最北である。各々の北限の理由として、現時点では、地形の変換点は明瞭な形で存在していない。しかし周堀を伴う古墳を築造しようとするれば、藪塚台地を形成する基盤には、礫層が存在し、12号古墳以北では、礫層の露頭がところどころ顔を出し、14・15号古墳の存在している個所では周堀築造困難を思わせるほど礫の多さで、単独で竪穴系石室を設けるなら、石材確保に通ずる側面を持つかもしれない。しかし、旧地表はどの程度の厚さであったか不明ではあるが覆われていたのであろう。以上、この礫層の存在が周堀を伴う古墳の築造に、大きく影響したと考えたい。

第3章 埴輪の焼成について考える

近世・近代の小泉焼（現大泉町・南窯）は、黒物と呼ばれる焼成された軟質陶器の一群があり、それらの割れ口は芯が黒～暗黒褐色、その外が灰～黄灰色、さらに外面が黒～暗黒褐色に焼され、計5層の色縞を見ることができる。この色縞は、焼成の過程を示唆し、還元焰焼成から焼しを確実にするために、最終に近い工程中、一旦、酸化気味に焼成し、最後に煙吸炭させたようである。埴輪類の割れ口の色縞について、そうした焼成工程を示唆しているとの観点から観察を行った。その結果、11号古墳では、円筒の大半が芯側還元気味、外面酸化焰、形象もこの3層となる傾向がある。12古墳の少量の埴輪片も同様であった。16号古墳では3層となる個体も含まれているが、芯近くまで酸化気味となる個体が、やや多かった。いずれにせよ、それらについては、前章のとおり窯を使用しての製品と推定した。

第4章 生産基盤について

調査地の北端であるK13区で、低地帯の一角が調査され、プラント・オパール分析の結果、史料上天仁元年(1108)、考古学上は12世紀初頭頃とされる浅間山起源のAs-B下層で、多量に検出され、稲作ありの可能性の指摘があった。以下の層位では判然としなかった。西長岡の地は、中世においては成塚郷に属していたと考えられ、「成塚郷の景観」『群馬県史通史編3中世』山本隆志1987によれば嘉応二年(1170)初見資料がある。山本氏は成塚郷の水田形成について「中世の成塚郷は成塚と北金井、菅塩の間に広く開けた地帯に水田を形成し、その集落は成塚にあったと思う。この水田地帯は低地であり、中世においては全面的水田化は困難であったろうが、悪水抜き地を施しつつ、水田耕作を行っていたものと考えられる。そのほか菅塩、北金井(金谷)のヤト田を持っていたろうが、それは副次的なものであろう(特に成初期)。これらの流水が成塚の沖積地を灌していた。」と説明しておられる。ヤト田の水源となる谷水たにのみずは現菅塩の集落の奥に溜め池が2段以上にわたり設けられており、このほか太田金山でも、八王子丘陵の西方から北側にかけての谷奥に点在している。平野部に面する三紀層基盤の谷水の水量の多さは、遺跡分布調査で知った安中市秋間以上に見え、相当な水量があり、山本氏の説明に符号する。そのため、各谷水が集合しての水量は相当量があったと考えられ、また太田金山・八王子丘陵の西方に開けた谷底平野とも呼べそうな広大な低地は、水利管理の方法によっては、県下有数の水田地帯となり得ていたであろうことを想定しておきたい。成塚住宅団地内集落跡の背景はこうした水田耕地に根ざしていたのであろう。

写 真 图 版



調査地（下方）と八王子丘陵（奥）近景 南西→



調査地全景と八王子丘陵（右） 南東→



K13区低地の調査状況 北東→



調査地より金山丘陵を望む 北西→



J11・J12区近景 南→



I10区三角点下の調査区 南東→



H18区の調査区全景 南東→



HI8区全景 南東→



HI8区試掘調査状況 南東→



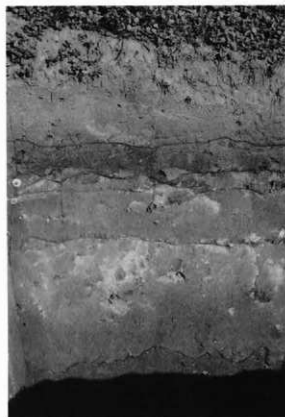
HI8区試掘調査状況 北西→



J10・11区垂直 上が北西



基本層序、J11区230北東壁 南西→



基本層序、J11区366北東壁 南西→



基本層序、J11区077 北東→



基本層序、J11区360・380 北東→



11号古墳全景垂直 上が北東



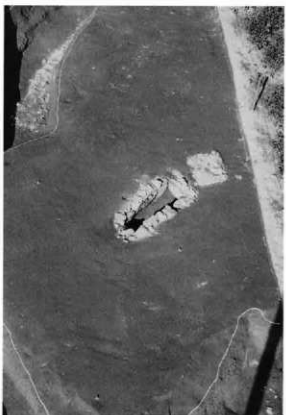
11号古墳近景 南西→



11号古墳全景 南東→



11号古墳全景 南東→



11号古墳近景 南東→



11号古墳埴輪出土状況近景 南東→



11号古墳主体部発見面状況全景 南→



11号古墳主体部発見面状況近景 南→



11号古墳壙穴式石室内遺物出土状況 南→



11号古墳石室北半の遺物出土状況 南→



11号古墳石室東壁側の遺物出土状況 南西→



11号古墳石室西壁と遺物出土状況 南東→



11号古墳石室北半の遺物出土状況 東→



11号古墳石室の遺物出土状況近接 東→



11号古墳石室の玉類出土状況 東→



11号古墳石室の玉類出土状況 南→



11号古墳石室中央部の遺物出土状況 南→



11号古墳石室南側の遺物出土状況 南→



11号古墳石室刀子出土状況 東→



11号古墳石室掘方状況 南→



11号古墳石室掘方土層断面と調査状況 南→



11号古墳石室北側小口壁の近接 南→



11号古墳南側小口壁の近接 北→



11号古墳石室東壁の状況 西→



11号古墳石室東壁北半の根石 西→



11号古墳石室東壁中央の状況 西→



11号古墳石室東壁の状況 西→



11号古墳石室掘方と西壁の状況 東→



11号古墳石室掘方と土層断面 南→



11号古墳北側小口壁の石組状況 上が北



11号古墳石室大石の石組状況 上が北



11号古墳石室と掘方間の築土状況 南→



11号古墳石室、現地で行った石組順、復元の試み 東→



11号古墳墳出土状況全景 南東→



11号古墳北側くびれ部周堀堀出土状況 北東→



11号古墳南側くびれ部堀出土状況 北→



11号古墳後円部北側周堀堀出土状況 北→



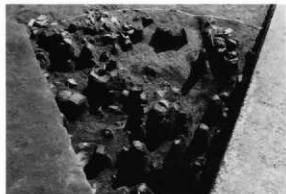
11号古墳後円部北側周堀堀出土状況 北→



11号古墳後円部北側周堀填出土状況 南西→



11号古墳前方部端周堀填出土状況 北東→



11号古墳前方部端周堀填出土状況 北東→



11号古墳後円部北側周堀中央填出土状況 北西→



11号古墳後円部北側周堀中央土層帯 北西→



11号古墳前方部中央土層帯填出土状況 北東→



11号古墳北側くびれ部土層帯填出土状況 東→



11号古墳周堀出土埴輪No1 西南→



11号古墳周堀出土埴輪No2 南→



11号古墳周堀出土埴輪No2 北東→



11号古墳周堀出土埴輪No2 南→



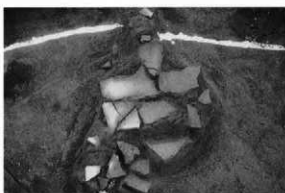
11号古墳周堀出土埴輪No2 北→



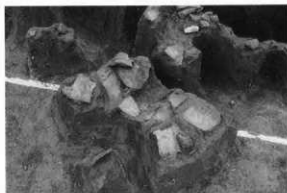
11号古墳周堀出土埴輪No3 南→



11号古墳周堀出土埴輪No4 南東→



11号古墳周堀出土埴輪No5 北→



11号古墳周堀出土埴輪No6 北東→



11号古墳周堀出土埴輪No7 北東→



11号古墳周堀出土埴輪No11 北→



11号古墳周堀出土埴輪No14 南東→



11号古墳周堀出土埴輪No16・17 南東→



11号古墳周堀出土埴輪No33・34 南東→



11号古墳周堀出土埴輪No35・36 北東→



11号古墳周堀出土埴輪No37 東→



11号古墳周堀出土埴輪No47 東→



11号古墳周堀出土埴輪No82・83 北→



11号古墳周堀出土埴輪No52・89 北東→



11号古墳周堀出土埴輪No87 北東→



11号古墳周堀出土埴輪No91 西→



11号古墳周堀出土埴輪No95 西→



11号古墳周堀出土埴輪No96 南西→



11号古墳周堀出土土師器No96 南西→



11号古墳石室土層断面 北北東→



11号古墳石室土層断面 南南西→



11号古墳周堀土層断面E 東→



11号古墳周堀土層断面C 北→



11号古墳周堀土層断面F 東→



11号古墳周堀土層断面G 南西→



11号古墳周堀土層断面B 南→



11号古墳周堀土層断面A 南西→



12号古墳垂直全景 上北東



12号古墳全景 南西→



12号古墳全景 北西→



12号古墳全景 南東→



12号古墳中央部近景 北西→



12号古墳中央部近景 南東→



12号古墳北側周堀内出土状況 南西→



12号古墳北側周堀内出土遺物 東→



12号古墳を切る23号溝跡の遺物出土状態 南東→



12号古墳北側周堀土層断面G 南西→



12号古墳南側周堀土層断面C 南西→



12号古墳土層断面G南側 西→



12号古墳土層断面B左側は周堀 北東→



12号古墳北側周堀土層断面 北→



12号古墳土層断面D 北→



12号古墳土層断面C 南西→



12号古墳土層断面D 北東→



13号古墳北側周堀近景 上方が北東



13号古墳南側周堀近景 上方が北東



13号古墳南側周堀 上方が南東



13号古墳南側周堀試掘時状況 南東→



13号古墳南側周堀土層断面 南西→



13号古墳北側周堀土層断面 北東→



13号古墳北側周堀土層断面 南→



14号古墳壙穴系石室全景 南東→



14号古墳石室掘方 南東→



14号古墳石室縦断面状況 南西→



14号古墳石室縦断面状況 南東→



14号古墳石室南小口と掘方断面状況 南西→



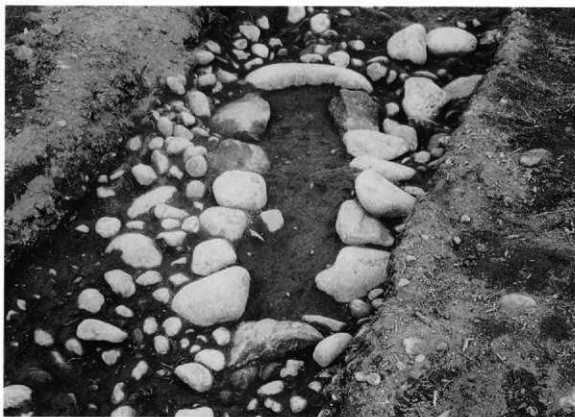
15号古墳試掘調査時の状況 北西→



15号古墳石室と石材の状況 北西→



15号古墳石室と石材の状況 南東→



15号古墳壘穴系石室発見面の状況 北西→



15号古墳壘穴系石室全景 北西→



15号古墳石室掘方全景 南東→



15号古墳石室近景 南東→



15号古墳南西壁の状況 北東→



15号古墳北東壁の状況 南西→



1号住居跡床面状態 南西→



1号住居跡遺物出土状態 南西→



1号住居跡掘方状態 南西→



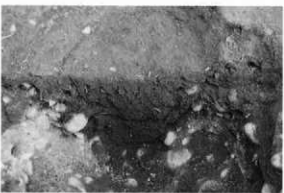
1号住居跡遺物出土状態近接 南東→



1号住居跡遺物出土状態 北西→



1号住居跡遺物出土状態 南西→



1号住居跡ビット2断面 南西→



1号住居跡ビット3断面 南西→



2号住居跡はは床面の状態 東→



2号住居跡遺物出土状態 東→



2号住居跡遺物出土状態近景 東→



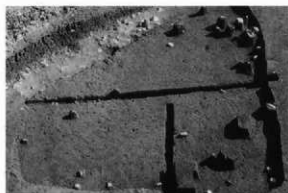
2号住居跡遺物出土状態近接 東→



2号住居跡遺物出土状態近接 東→



2号住居跡遺物出土状態近接 北東→



3号住居跡遺物出土状態 北西→



3号住居跡掘方状態 北西→



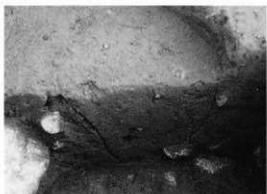
3号住居跡土層断面 南東→



3号住居跡遺物出土状態近景 北西→



3号住居跡遺物出土状態近景 北→



3号住居跡ピット1断面 南→



3号住居跡ピット2断面 南→



3号住居跡ピット3断面 南→



4号住居跡近景 西→



4号住居跡近景 南西→



1号溝跡全景垂直 上が北東



1号溝跡近景 南東→



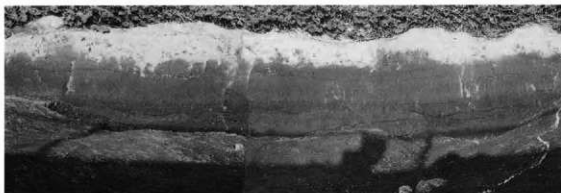
1号溝跡土層断面 南西→



3号溝跡全景 南東→



2号溝跡(中央)全景、左3号溝跡 東→



2号溝跡（左寄り）・3号溝跡（右寄り）土層断面 南西→



4号溝跡近景 北東→



4号溝跡近景 南東→



4号溝跡土層断面 西→



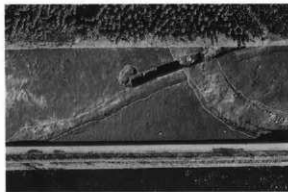
5号溝跡近景 南東→



5号溝跡近景と土層断面 北東→



5号溝跡土層断面 北東→



6号溝跡(長方形穴跡)全景垂直 上が北東



9号溝跡全景垂直 上方が北東



7号溝跡土層断面 北東→



8号溝跡近景 東→



8号溝跡土層断面 南西→



9号溝跡全景 北西→



9号溝跡近景 南→



9号溝跡土層断面 南西→



10号溝跡全景 北西→



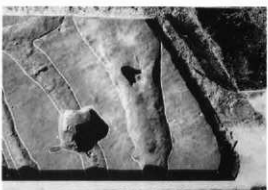
10号溝跡遺物出土状況 北西→



10号溝跡遺物出土状況 西→



10号溝跡土層断面 南東→



23号溝跡全景 (中央左寄9) 上が北東



11 (左寄)・12号溝跡(下半)近景 南→



11号溝跡土層断面 北→



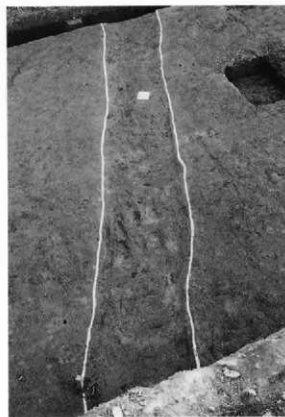
11 (右)・12号溝跡土層断面 南東→



11 (左上)・12 (中央)・14号溝跡 (右) 近景 南→



11・12・14 (中央)・15号溝跡 (右) 全景 南→



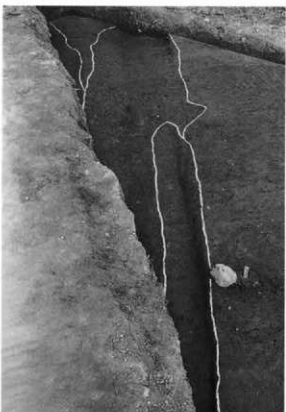
13号溝跡全景 西→



14号溝跡土層断面 南→



15号溝跡土層断面 南→



16 (左)・17 (中)・18号溝跡 (右) 全景 南→



16 (左)・17号溝跡土層断面 南→



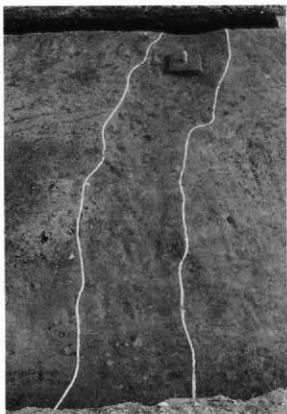
17 (中央)・18号溝跡土層断面 南→



19号溝跡近景 西→



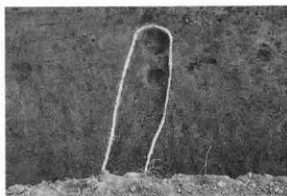
19号溝跡土層断面 西→



20号溝跡全景 西→



20号溝跡土層断面 西→



21号溝跡全景 西→



21号溝跡土層断面 北東→



21号溝跡全景 北→



作業風景、12号墳中央部 北西→



作業風景、K13区As-B下の面 南東→



1号土坑全景(中央)、上方は6号溝跡 北→



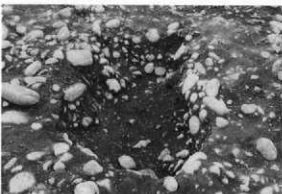
1号土坑土層断面 北→



3号土坑全景 南西→



3号土坑土層断面 南東→



4号土坑全景 南→



5号土坑全景・土層断面 北西→



6号土坑全景 北→



7号土坑全景 南→



9号土坑全景 東→



9号土坑土層断面 東→



10号土坑全景 北東→



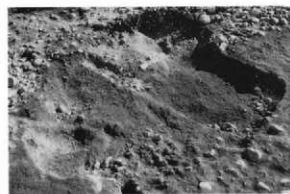
11号土坑近景・土層断面 東→



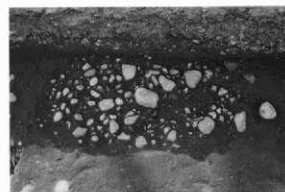
12号土坑全景 北東→



13号土坑全景 西→



14号土坑近景 南西→



15号土坑近景・土層断面 北東→



1号ピット土層断面 南西→



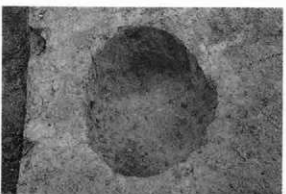
2号ピット土層断面 南西→



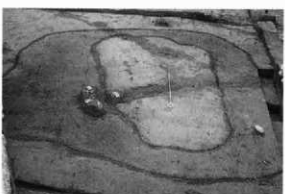
8号ピット土層断面 南東→



16号ピット全景 南西→



17号ピット全景 南西→



1号風倒木跡近景 南東→



2号風倒木跡土層断面 北東→



6号風倒木跡土層断面 北→



J10区の弥生時代以前の遺構確認作業 北西→



J11区192付近の縄文土器出土状況 北西→



J11区192付近の縄文土器出土状況 南→



J11区192の縄文土器出土状況 西→



J11区192の縄文土器出土状況 西→



J11区As-B下の水田疑似面 南→



同左の面上の近接状態 西→



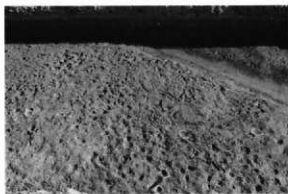
K13区Hr-FA下面 北西→



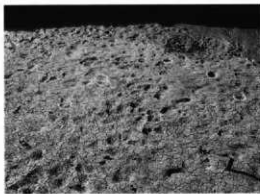
K13区Hr-FA下面 北西→



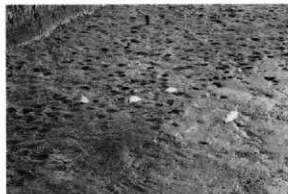
K13区低地の調査状況 南東→



K13区Hr-FA下面の状況 右上22号溝 北西→



K13区Hr-FA下面の状況 北東→



K13区Hr-FA下面の状況 北西→



K13区Hr-FA下面の足痕跡取凹凸 南東→



K13区Hr-FA下面の足痕跡



K13区Hr-FA下面の足痕跡



K13区Hr-FA下面の足痕跡



K13区Hr-FA下面の足痕跡



K13区As-C下面調査と土層断面 北東→



K13区As-C下面と直上の土層 南西→



K13区370付近遺物出土状態 西→



K13区370付近遺物出土状態 南西→



K13区370付近遺物出土状態 南→



K13区370付近遺物出土状態近景 南西→



K13区370付近遺物出土状態近接 北西→



K13区370付近遺物出土状態 南西→



西長岡南遺跡Ⅲ全景 北西→



同左 下方が北西



16号古墳 南東→



同墳北周堀 南→



同墳北周堀埴輪出土状態 南→



同左近景 北西→



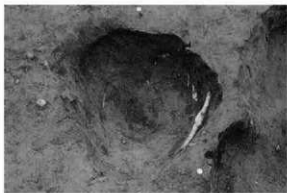
16号古墳北周堀 南西→



16号古墳南周堀 南西→



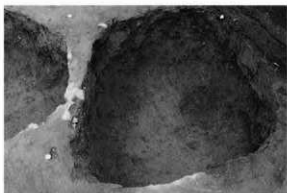
同墳北周堀上層第113圓21出土状態



1号土坑 西→



2号土坑 南→



3号土坑、左4号土坑 南→



3号土坑堆植物断面状態 南→



5号土坑 南→



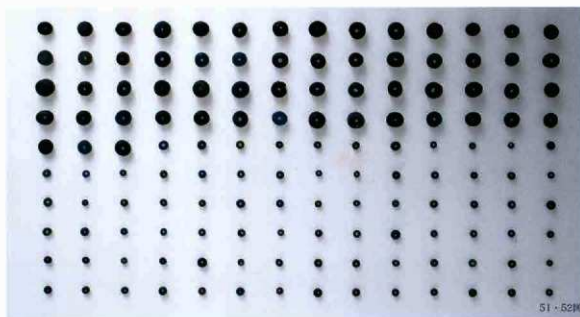
11号古墳石室 南→



同石室北小口壁 南→



同石室南小口壁 北→



同古墳出土玉類 左上203、右下342連番で続く、およそ1:2

51・52頁



同古墳出土玉類 およそ1:1





埴輪形象と馬蹄の色彩 埴輪およそ1 : 4



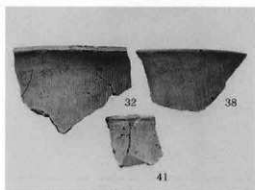
5号古墳・11号古墳遺物

およそ1:5



11号古墳遺物 上より1:5





11号古墳遺物 拡大率 1 : 5

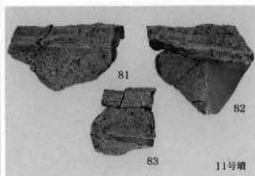
11号墳



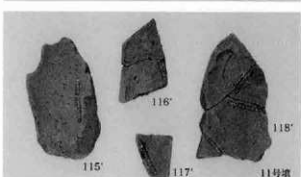
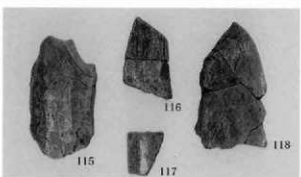
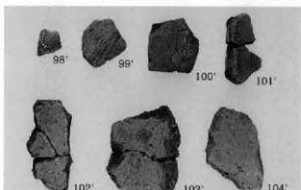
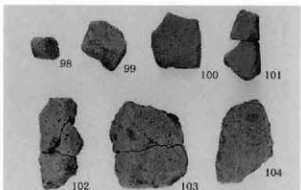
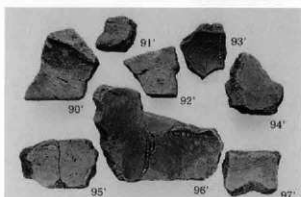
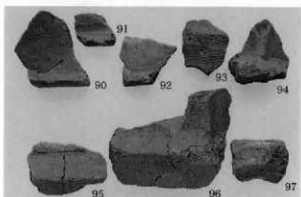
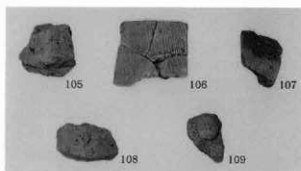
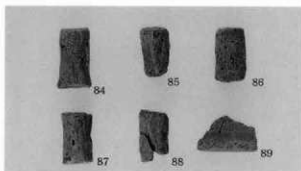
11号古墳遺物 およそ1:5

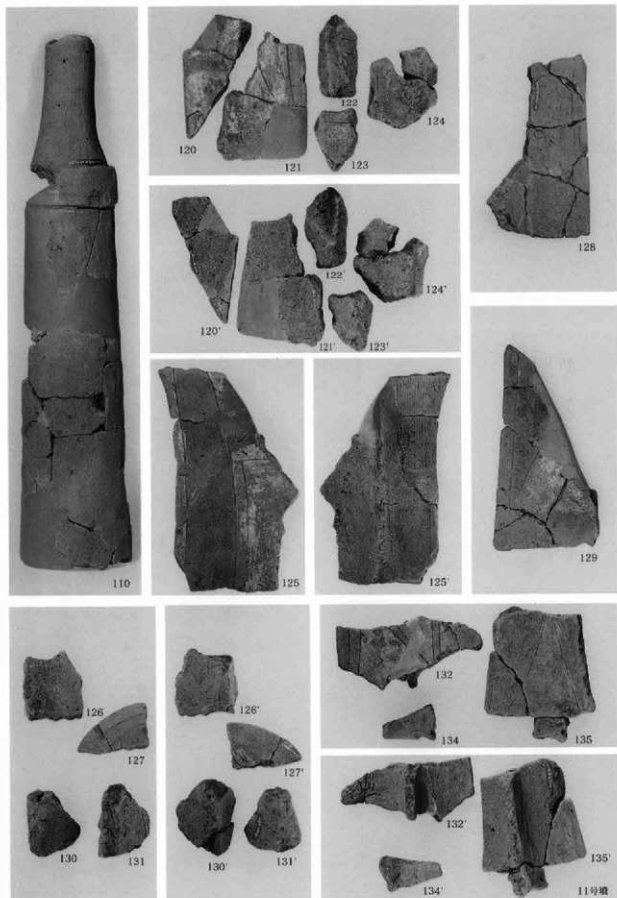
11号墳



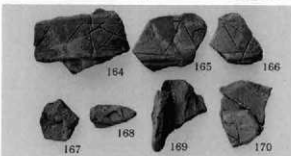
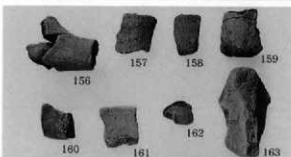
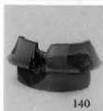
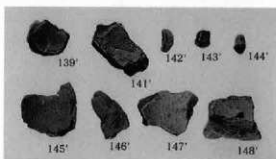
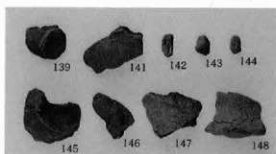


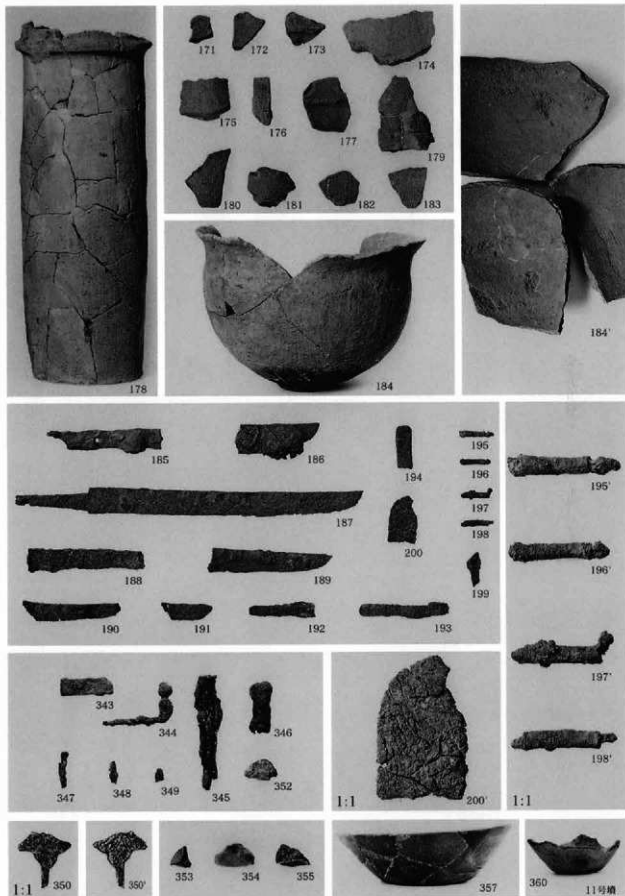
11号古墳遺物 およそ1:5



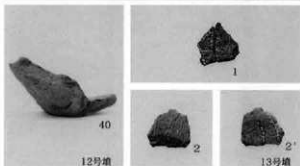
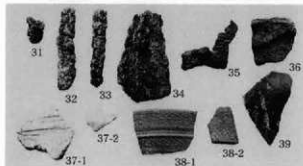
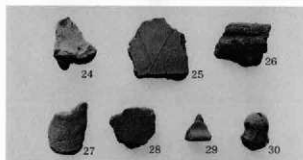
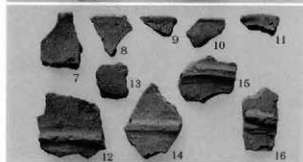
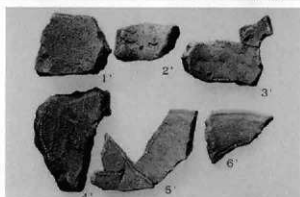
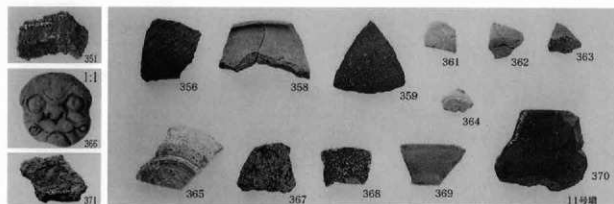


11号古墳遺物 およそ1:5

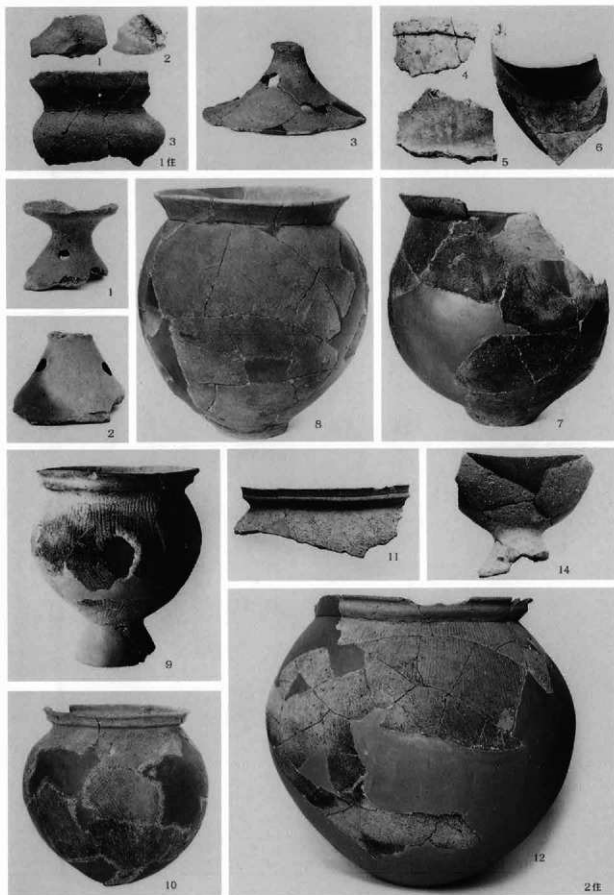




11号古墳遺物 右上より1:1, 1:3, 1:5

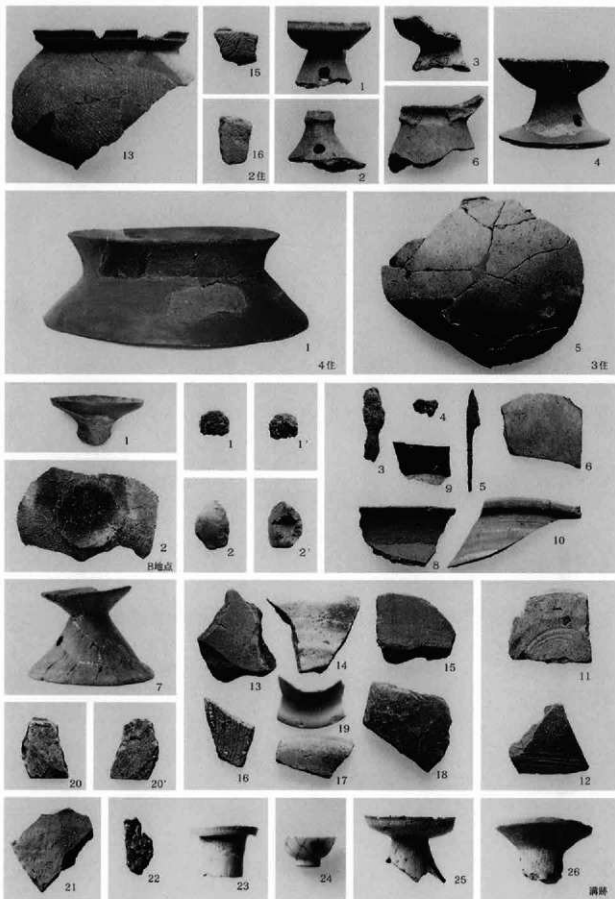


11・12・13号古墳遺物 およそ1:1, 1:3, 1:5



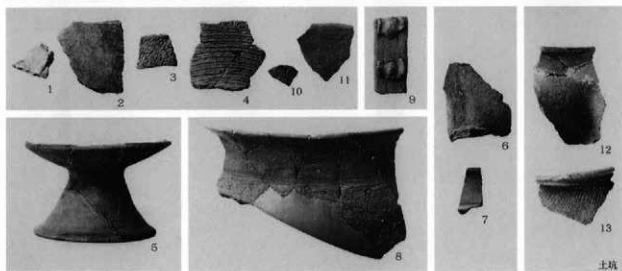
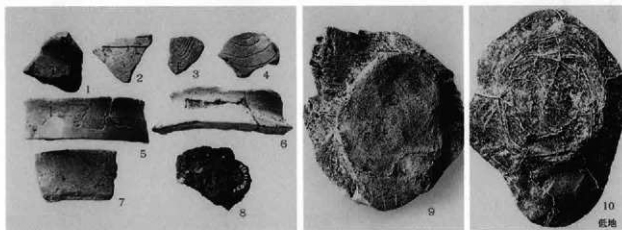
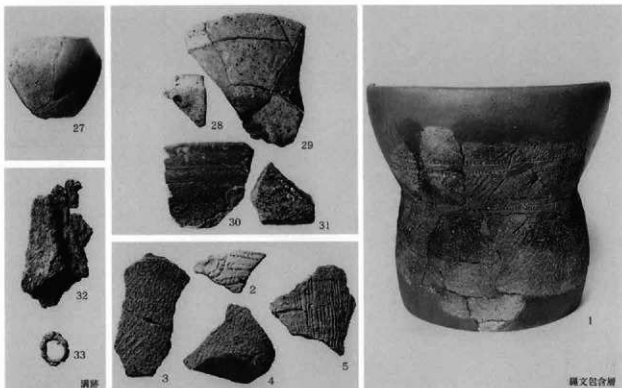
住居跡遺物 およそ1:3

2住



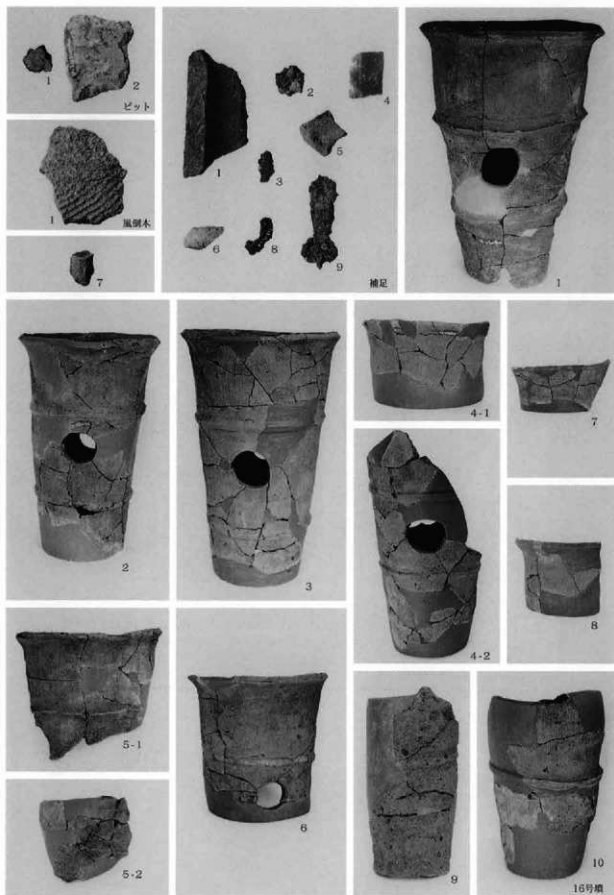
住居跡・B地点・溝跡遺物

おおよそ1:3, 1:4



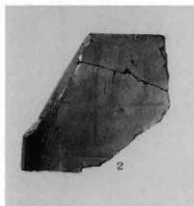
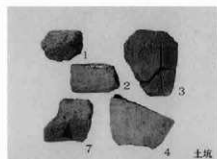
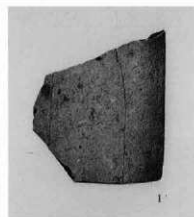
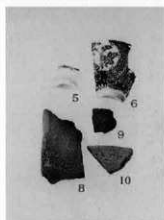
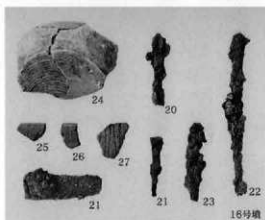
溝跡・低地・土坑遺物

おとそ1:3



西長岡南遺跡Ⅱピット・風倒木跡・補足遺物、西長岡南遺跡Ⅲ16号古墳遺物

およそ1:3, 1:5



16号古墳・土坑・補足遺物

おおよそ 1 : 3、1 : 4

報 告 書 抄 録

フリガナ	ニシナガオカミナミイセキニ・サン
書名	西長岡南遺跡Ⅱ・Ⅲ
副書名	一級河川蛇川小規模河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第4集
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査事業団発掘報告
シリーズ番号	第228集
編集名	大江正行他
編集機関	静岡県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377-0061 静岡県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年	1997年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東緯 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ニシナガオカミナミイセキニ 西長岡南遺跡Ⅱ	静岡県太田市西長岡	10205		361633	1391644	19940901 ∩ 19941228	4330㎡	河川改修
ニシナガオカミナミイセキニ 西長岡南遺跡Ⅲ	#	#		#	#	1960401 ∩ 19960531	320㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西長岡南遺跡Ⅱ	墳墓 生活	古墳	古墳2 住居3	ガラス玉、刀、刀子、埴輪、土師器	11号古墳は帆立貝型墳丘に竪穴系石室を有する
西長岡南遺跡Ⅲ	墳墓	古墳	古墳1	鉄製鏝、鉄製遺物、埴輪	16号古墳の円筒埴輪残存良

西長岡南遺跡Ⅱ・Ⅲ

一徳河川(蛇川)小規模河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書4

平成9年3月20日 印刷

平成9年3月25日 発行

発行・編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北極村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社